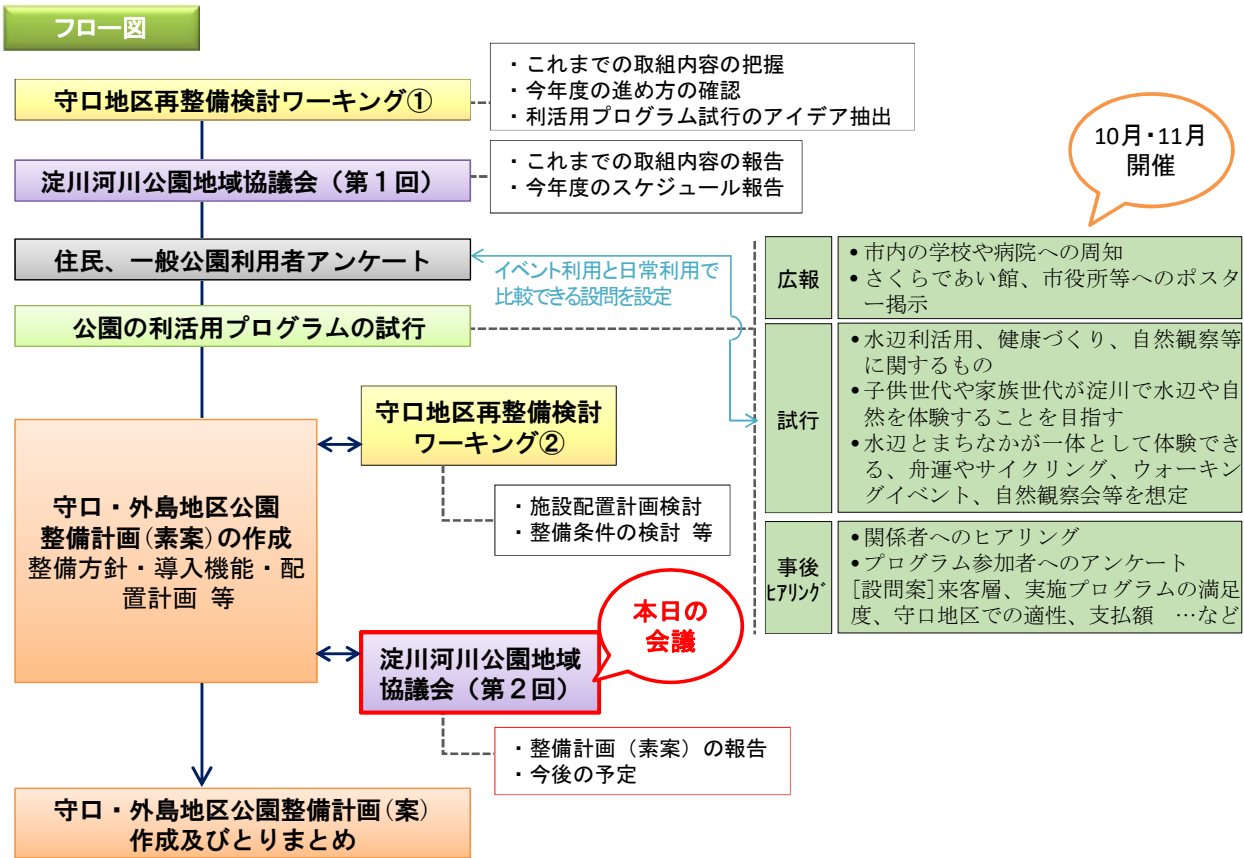


淀川河川公園 守口地区 守口サービスセンター再整備事業について

【目次】

1. これまでの検討状況
2. 利活用プログラム試行結果の報告
3. アンケート調査結果の報告
4. 利活用プログラム・アンケート結果まとめ
5. 守口地区外島地区 公園整備計画(素案)
6. 民間活力導入の考え方
7. 今後の進め方

1. これまでの検討状況【平成30年度の検討の進捗】



1. これまでの検討状況【平成30年度の検討の進捗】

第1回下流域地域協議会(2018/08/27) 守口地区に関する意見と対応

	指摘事項・主な意見等	対応・検討内容(案)
1	<p>守口地区と他地区の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川敷であるという制約条件と堤外地の施設であるという点が同時に議論されている。 守口地区周辺は自然環境が貧弱である。ここで自然をウリにすることは難しいのではないが、「守口地区」だけに注目されていないか。各地区には、スポーツゾーンやバーベキュー広場があるなど特色があるが、これらの地区を広く捉えて議論する必要がある 守口地区だけに注目するだけではなく、交通などの利便性という面からもっと広く人が来ることを想定すべき。 既存の公園施設と守口サービスセンターの関係を考えて検討していたが、今は多少おざなりになっていないか。 サービスセンターの役割は全体の中でどういった位置付けにするのかは改めて議論すべきではないか。 ストック形成の考え方が抜けており、危うさを感じる。建屋、堤外地など、それぞれ分けて考えるべきではないか。 サービスセンター再整備の目的は、また一から考えるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 淀川河川公園の中での守口サービスセンターの位置づけを再度整理する。 守口地区は堤内地に位置するため、公園利用を考える場合は外島地区と一体的に考える必要がある。「守口・外島地区公園整備計画(素案)」を作成し、現状の利用ニーズに即した公園利用のための整備方針を検討する。 試行プログラムやアンケートの結果を踏まえ機能配置を検討する。 <p>⇒P4～6、18～23</p>
2	<p>アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> 利活用プログラムでは、アンケートによる検証の仕方、評価方法がしっかりしていないと意味がない。 建屋の機能については「淀川全体で考えて、その下流域にある守口サービスセンターにどういった機能が必要か」というような質問項目が必要である。 自然系と飲食機能は両立するのか。 アンケートで、管理機能として何が必要とされているのか、淀川河川敷公園全体を支えていくにあたってどのような施設機能がほしいか、河川敷公園のあり方(グラウンド型、自然型)、利活用プログラムへの感想、といった項目も問うべきである。 何年内にサービスセンターを整備したいのか、その基本的機能・付加的機能をしっかりと提示し、スケジュールに示すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 公園施設の改善点についても利用者へ調査。 公園利用者へ調査する内容として河川公園全体のサービスセンターの位置づけを問うことは適切でないと考え、あくまでプログラムの内容に絞っている。 「健康・自然型」をテーマにした試行プログラムであることを最初に説明。 SCの完成予定をアンケートへ提示する。 <p>⇒P7～17</p>
3	<p>教育委員会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> より広域的に考えることと、河川事務所と教育委員会・学校との連携が重要 教育機関と連携し、河川のことを教えるような取り組みを目指すべきである。そのための施設として、トイレや屋根など最低限のものがあることが重要。 大量のイス、机などの設備がなくとも、子どもたちが待機できるような施設であればよいのではないか。 「検討プラットフォーム」に教育関係が入っていない。教育関係者との連携はしっかりと行ってほしい。 広報に力を入れ積極的にアナウンスをしてべき。このような環境は珍しいのでアピールしてほしい。 学校現場も外に出ることを禁止する傾向があり、外に出る機会が失われているからこそ、広報が重要では。 利活用プログラム参加者だけでなく、周辺の全教育機関にアンケートするくらいの覚悟を。 河川で遊ばせたくない関係者は本当に多いが、その状況をどのようにクリアしていくのか、そのために危険性を学ぶことも含め「学習・教育」の側面も検討していくべき 	<ul style="list-style-type: none"> 教育期間への意見聴取等を継続的にやっていく。 利活用プログラムの取組については、教育委員会を通して守口市内の小学校へチラシを配布することにより、周知・広報を実施。 多目的のルーム等、会議スペース等のニーズについてもアンケートで把握。 特に自然体験については、プログラムの当日にも積極的に声掛けし、参加を促した。 守口市内のコミュニティセンターへのチラシやポスターの設置、周辺の住宅へのチラシ配布、HPへの広告バナーの掲載を実施し、より多くの住民の目に触れるよう広報を実施した。

1. これまでの検討状況【平成29年度からの検討経緯】

(1)再整備の主な目的

- ◆ 本サービスセンターは設置から約30年が経過
- ◆ 健康増進など時代にあった新たなニーズへの対応
- ◆ 民間活力の導入を考慮に入れた、持続可能な事業展開



より利用者ニーズにあった施設整備や、持続可能な運営を見据えた仕組みづくりを踏まえた再整備計画が必要

(2)これまでの検討の項目と流れ

- ◆ 守口地区の目指す再整備の進め方や方向性、公園管理上必要となる機能等の検討
- ◆ 下流域地域協議会のもと「守口地区再整備検討ワーキング」を開催
- ◆ 民間事業者に対する、再整備事業への関心や参画の可能性等についての調査(民間ヒアリング)
- ◆ 利活用プログラムの試行、アンケート実施
- ◆ 守口地区外島地区公園整備計画(素案)の検討

平成29年度	第1回下流域地域協議会	再整備の進め方、方向性について報告
	第1回WG	公園管理機能等の抽出(必要な機能、あるとよい施設等)
	公園利用アンケート	公園利用ニーズの把握(近隣住民、WEB)
	第2回WG	事業面からみた施設整備、管理運営スキーム等の検討
	第2回下流域地域協議会	導入機能の検討結果報告
平成30年度	第3回WG	守口地区再整備計画(案)の確認
	第1回WG	利活用プログラムの内容について
	利活用プログラム、アンケート	イベント開催、アンケートによる守口地区での適性、ニーズの確認
	第2回WG	公園整備計画(素案)の検討、公募条件について
	第2回下流域地域協議会	公園整備計画(素案)の検討

1. これまでの検討状況【平成29年度からの検討経緯】

淀川河川公園の整備及び管理運営の基本方針(「淀川河川公園基本計画」平成20年8月より)

「河川は人を含むすべての生物にとって共有の財産であり、淀川における自然環境や歴史・文化、人との関わりを大切にしたい公園にする」という認識のもとで、淀川の自然環境や淀川と人との関わりを次世代に引き継ぐための公園づくりを目指す。

≪整備方針≫

- (1) ソーニング計画を新たに定める
- (2) 淀川の自然環境の保全・再生を図る
- (3) 淀川らしい利用ができるようにする
- (4) 淀川にまつわる歴史・文化資源を活かす

≪管理運営方針≫

- (1) 淀川の自然環境の保全・再生に関する調査・分析と見直しを行う
- (2) 安全、快適に利用できるようにする
- (3) 淀川にふれ、学ぶための機会を増やす
- (4) 多様な主体の参加と連携を図る

国の動向

- 持続可能で活力ある国土・地域づくりの推進(出典:国土交通省HP 総合政策「持続可能で活力ある国土・地域づくりの推進について」人口減少、少子高齢化、財政制約、国際競争の激化に加え、地球環境問題や震災を契機としたエネルギー制約等を克服し、国の明るい将来を築く)
- 都市公園法の改正(出典:国土交通省HP 都市局「都市緑地法等の一部を改正する法律が平成29年6月15日に施行されました」基礎資料 概要)
 - ・ 都市公園で保育所等の設置を可能に(国家戦略特区特例の一般措置化)
 - ・ 民間事業者による公共還元型の収益施設の設置管理制度の創設
 - ・ 収益施設(カフェ、レストラン等)の設置(管理者を民間事業者から公募選定)
 - ・ 設置管理許可期間の延伸(10年→20年)、建蔽率の緩和等
 - ・ 民間事業者が広場設備等の公園リニューアルを併せて実施
 - ・ 公園内のPFI事業に係る設置管理許可期間の延伸(10年→30年)
 - ・ 公園の活性化に関する協議会の設置

守口地区に関する現状での位置付けや特性

- 淀川河川公園の管理窓口(守口サービスセンター)
- 淀川河川公園内のサービスセンターの中でも最も拠点性があり、重要な役割を担う
- 淀川河川公園(河川敷)は、野球・陸上・テニスコート等の運動施設が整備、草地地区やワンドによる自然環境も豊か
- 地区の周辺は住宅地や団地、総合病院(松下記念病院)が隣接。教育施設も多い
- 鉄道駅からのアクセスが良好(徒歩圏内)

社会的背景(少子高齢化、人口減少)を踏まえた公園のあり方

- 健康増進・予防の推進
- 高齢者世帯や単身世帯が増加する中でコミュニティの形成
- 豊かな緑の中でやすらぎが実感できる生活環境の向上
- 生物多様性の富んだ、自然環境との共生
- 市民参加や協働による公園づくりや管理
- 民間ノウハウを活用した公共施設の整備や管理の必要性の高まり

守口市及び守口地区の歴史

- 守口市は大阪市に隣接し、商業・産業のまちとして繁栄
- 東海道五十七次の宿場町「守口宿」
- 過去におけるアイススケートリンクとしての利用や、軽食堂や売店等としての利用(守口サービスセンター)

上位計画等による守口地区の主な位置づけ

- 淀川を自然環境資源としての位置づけ、親水空間やスポーツ・レクリエーションの拠点(守口市第五次総合基本計画)
- 河川レンジャーの活動拠点(淀川水系河川整備計画)
- 淀川河川公園管理センターの本部機構として設置予定 (淀川河川公園基本計画)

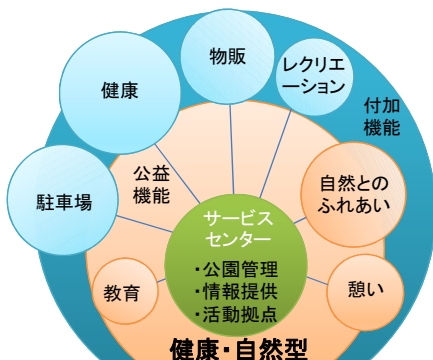
1. これまでの検討状況【平成29年度からの検討経緯】

【導入機能の見直し】

■ 守口地区周辺の機能の設定

地域特性を踏まえ守口地区周辺の利活用として、「自然体験型」「地域振興型」「健康型」の3パターンを検討した。さらにワーキングや住民アンケート等の意見を踏まえて見直しを行った。

その結果、スポーツ・レクリエーション、物販・飲食、さらには河川敷との一体利用に資することができる「自然体験型」と「健康型」の機能をミックスする「健康・自然型」の利活用を想定して検討をすすめることとした



健康・自然型機能イメージ

- 淀川河川公園の特徴である都市部で身近に自然を感じることができる空間を活かした各種自然体験や活動の場
- 淀川の広い河川敷を活用した運動やレクリエーション等の健康づくりやリフレッシュが日常的にできる場
- 民間事業者が参入することで、より充実したプログラムの提供が可能

1. これまでの検討状況【平成29年度からの検討経緯】

【利活用イメージ】

○健康

- ・守口地区をスタート・ゴール地点として、地域の方・公園利用者の方がジョギング、ウォーキングのために利用する。
- ・ロッカーやシャワーを設け、気軽に運動に親しむ場として河川公園を利用する。
- ・またスポーツ教室の開催やトレーニング室を整備。広大な河川公園に隣接した健康づくりの場として、他のスポーツクラブとの差別化を図る。



○教育・自然とのふれあい

- ・河川敷と水辺との距離をより近づけ、周辺の学校の自然観察会の開催。
- ・釣り大会やコンテスト・カヌー教室・いきものの観察会を開催。自然と触れ合う機会を増やす。



○憩い・レクリエーション

- ・フリーマーケットや地域のイベントなどの場として河川敷を利用。必要な機材や道具をサービスセンターに保管・貸し出しをする。
- ・大阪都市圏の中でも貴重な自然環境の中で開催するBBQなど、屋外のレクリエーションの場として河川敷を活用する。
- ・地域の学校のレクリエーションの場として利用。
- ・淀川本川における舟運の船着場として利用。守口宿との連携



○物販

- ・河川公園をより有意義に過ごすための施設として、健康に資する商品やスポーツ用品の販売・レンタルを行う。
- ・河川敷を見渡せるカフェなどの休憩施設や飲食施設を設け公園利用者だけでなく地域住民に利用いただく。



○駐車場

- ・駐車場も緑化することにより、住宅地の中に緑の空間を設ける。
- ・空きスペース等を利用してフリーマーケットなどの開催。

○サービスセンター

- ・公園施設の管理運営とともに河川公園で開催されるイベント等の情報発信を実施。利用者に向けて広く広報活動を実施する。
- ・公園利用プログラム等の一環として、会議室や多目的室を地域住民等に活用していただく。
- ・イベントや各種教室の受付をする。
- ・自然を紹介する企画展等を開催。
- ・植物などを使ったクラフト体験を開催。

上記の配置や機能は案として提示しているものであり、今後の検討によって変更となる可能性があります。水辺の利用については、河川管理者と要調整

2. 利活用プログラム試行結果の報告【開催概要】

目的

- 守口地区の再整備に向けた必要な機能、配置、利用者ニーズ等を確認するため、「健康・自然型機能」に関連した利活用プログラムを試行する。
- 利活用プログラムは、公益性の高いプログラムと収益性のあるプログラムを両方実施し、健康、レクリエーション、自然体験など様々な利用が共存する方策を検討する。
- また、利用者アンケートを実施し各プログラムの支払意思額等を把握するとともに、必要なコストを算出、比較して市場経済の元での持続可能性についても検証する。

コンセプト

淀川に寄ってみる？ 淀川でやってみる！ 淀川河川公園守口地区でリニューアルに向けた体験会

実施概要

【開催日】

- ・平成30年10月20(土)21(日)、27(土)28(日)
- ・SUP体験のみ平成30年11月10(土)11(日)

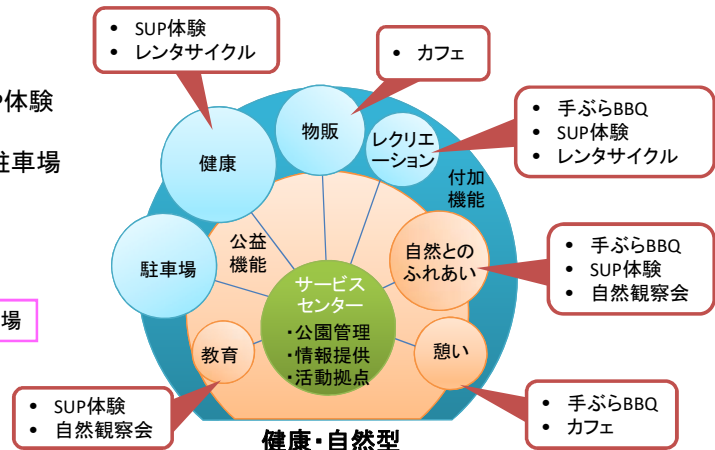
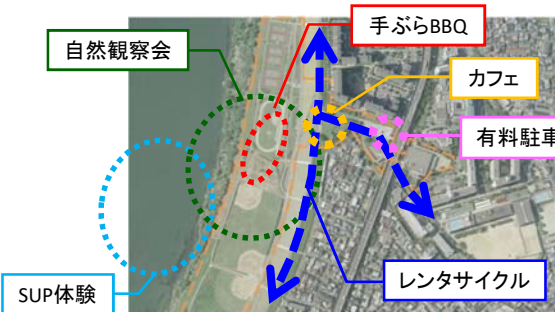
【プログラム】

《事前予約》

- ・手ぶらBBQ ・自然観察会 ・SUP体験

《当日受付》

- ・カフェ ・レンタサイクル ・有料駐車場



2. 利活用プログラム試行結果の報告【各プログラムの実施内容】

実施内容

※持続性のある運営の可能性を調査するため、全て有料で実施した。
 ※手ぶらBBQ、自然観察会、SUP体験は事前予約としたが、当日受付も実施した。

手ぶらBBQ

実施日	10月20（土）、21（日）、27（土）、28（日）
実施概要	食材及び器材全てを提供する手ぶらBBQを行う
実施規模 (1日あたり)	<ul style="list-style-type: none"> 2クール（11：00～13：00、14：00～16：00） 1クールあたり10組 1組あたり4～8名
設定金額	1,000～3,300円 レギュラーセット：2,800円、バラエティセット：3,000円 ポリユミーセット：2,800円、カジュアルセット：2,300円 キッズセット：1,000円 ※当日受付の場合は「カジュアルセット」のみを提供
協力者	府営公園でBBQ運営の実績がある地元飲食系事業者
検証 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 手ぶらBBQの需要を調査（集客性、採算性） 近隣住戸への影響（臭い、騒音等）を検証 他プログラムとの両立（場所、時間帯など）の可能性を検証

参加者数	20 (土)	21 (日)	27 (土)	28 (日)
予約	1組 (3人)	6組 (24人)	3組 (17人)	8組 (35人)
キャンセル	1組 (3人)	—	2組 (9人)	—
当日受付	2組 (6人)	1組 (4人)	—	—
利用合計	2組 (6人)	7組 (28人)	1組 (8人)	8組 (35人)
	18組(83人)※大人54人、子供29人			

※運動施設の予約状況から20、21日と27、28日で場所を変えて実施した。



10月20、21日（陸上トラック中芝地）

10月27、28日（野球場東側芝地）

8

2. 利活用プログラム試行結果の報告【各プログラムの実施内容】

自然観察会

実施日	10月20（土）、21（日）、27（土）、28（日）
実施概要	守口地区を拠点に、淀川河川公園で自然と触れ合う観察会を行う
実施規模 (1日あたり)	<ul style="list-style-type: none"> 3クール（10：00、13：00、15：00） 1クールあたり約60分 1クールあたり15名
設定金額	100円 ※資料代として
協力者	自然観察会運営経験者
検証 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 守口地区周辺の自然環境のPR効果の確認 継続的なプログラム実施の可能性（場所性、料金、需要）を調査

参加者数	20 (土)	21 (日)	27 (土)	28 (日)
予約	5組 (13人)	1組 (4人)	3組 (10人)	3組 (9人)
キャンセル	1組 (2人)	—	2人	—
当日受付	—	7組 (19人)	7組 (11人)	2組 (5人)
利用合計	4組 (11人)	8組 (23人)	10組 (19人)	5組 (14人)
	28組(67人)※大人27人、子供40人			



10月20、21日（植物観察、バッタとりなど）

10月27、28日（カワニナの観察、外来バッタ調査）

9

2. 利活用プログラム試行結果の報告【各プログラムの実施内容】

SUP体験

実施日	11月10（土）、11（日）
実施概要	初心者でも扱いやすいSUPを利用した水辺レジャーを提供する
実施規模 (1日あたり)	<ul style="list-style-type: none"> 5クール（10：30、11：30、13：30、14：30、15：30） 1クールあたり約30分 1クールあたり10名
設定金額	2,000円 ライフジャケット含む全ての備品を貸し出し
協力者	日本シティサップ協会(大阪府下で活動)
検証 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 手軽に水辺環境に親しむ場の機会を創出する効果の確認 継続的なプログラム実施の可能性(場所性、料金、需要)を調査

参加者数	10 (土)	11 (日)
予約	10組 (18人)	7組 (16人)
キャンセル	4組+1人 (9人)	1組+1人 (4人)
当日受付	3組+1人 (5人)	4組 (7人)
利用合計	9組 (14人)	10組 (19人)
	19組(33人)※大人27人、子供6人	



写真左: 淀川の紹介
写真右: 操作説明



仮設橋とボード



乗船の様子



仮設階段

10

2. 利活用プログラム試行結果の報告【各プログラムの実施内容】

レンタサイクル

実施日	10月20（土）、21（日） 27（土）、28（日）
実施概要	普通自転車や、変わり種自転車の貸し出しを行う
実施規模 (1日あたり)	普通自転車10台 変わり種3輪車3台
設定金額	60分300円（レンタル保証費として+2,000円）
協力者	レンタル事業者（自転車をレンタル）
検証 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> まちなかとの連携効果を検証 新たな公園利用者の獲得

カフェ

実施日	10月20（土）、21（日） 27（土）、28（日）
実施概要	公園利用者の休憩拠点として、ゆっくりくつろげる場所を提供する
実施規模 (1日あたり)	20、21日 キッチンカー1台(ドリンク、クレープ) 27、28日 キッチンカー2台(ドリンク、クレープ、たこ焼き)
設定金額	300~500円
協力者	守口門真商工会所属の地元飲食系事業者
検証 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 飲食機能の需要の調査(集客性、採算性)

参加者数	20(土)	21(日)	27(土)	28(日)	10(土)	11(日)	合計
レンタサイクル	2人	9人(変わり種2人)	0人	3人	—	—	14人
カフェ	約30人	約35人	約70人	約70人	—	—	約205人
駐車場	2台(3時間)	1台(4時間)	3台(4時間)	1台(2時間)	0台	2台(3時間)	9台(16時間)



11

2. 利活用プログラム試行結果の報告【参考】

広報

- 淀川河川公園ホームページへの掲載
- 守口市広報誌「広報もりぐち10月号」への掲載
- 守口地区周辺の住戸へチラシをポスティング(約7,500枚配布)
- 守口市内の小中学校へのチラシを配布(全生徒へ配布、A1ポスターの掲示)
- ポスター掲示(守口サービスセンター、さくらであい館、コミュニティーセンター(守口市市内8館)、大阪市旭区役所)
- FM-HANAKO(守口・門真地域のコミュニティラジオ)での告知

当日の天気

※数値は観測地点のものであるため、イベント実施会場の状況とは異なる場合がある

	天気	日最高 気温(°C)	日最 低気温(°C)	日積算 降水量(mm)	日最大 風速(m/s)	日積算 日照時間(時)
10月20(土)	晴一時雨	21.3(13:10)	15.1(24:00)	0.0	6.5(14:40)	5.4
現地状況	明け方からの降雨があり、午前中には止んだものの、断続的に強風が吹く天気となった。					
10月21(日)	晴	23.1(14:50)	11.5(05:50)	0.0	3.1(11:50)	10.6
現地状況	終日晴天に恵まれるが、時折強風あり					
10月27(土)	曇のち晴	22.9(13:20)	16.4(22:10)	3.0	5.7(10:50)	6.0
現地状況	終日晴天に恵まれるが、時折強風あり。人出は少なかった					
10月28(日)	晴	20.4(12:20)	13.0(06:40)	0.0	5.3(15:20)	10.3
現地状況	終日晴天に恵まれるが、時折強風あり。					
11月10(土)	曇のち晴	21.6(12:20)	13.8(23:40)	0.0	5.4(15:20)	6.6
現地状況	曇が多いものの、比較的穏やかな天気であった。夕方になり少々風が強まる。					
11月11(日)	晴	20.6(14:00)	11.3(06:20)	0.0	3.0(14:50)	9.6
現地状況	終日風もなく穏やかな秋晴れとなった。					



※日本気象協会tenki.jp「過去の天気」参照
※日最高気温・日最低気温・日最大風速は、アメダス10分値

12

3. アンケート調査結果の報告【実施概要】

目的	利活用プログラムでの体験等を通して、「淀川河川公園らしさ」や「守口地区らしさ」を踏まえた、導入機能や配置計画、経済効果等の参考とする。	
アンケート結果より抽出したい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・守口地区ならではの利活用メニューの創出 ・導入機能や施設配置等についての利用者ニーズの把握 ・利用サービス・機能への金額評価 	
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・利活用プログラム参加者 ・公園利用者(日常的な利用者):公園利用者、WEBアンケート ・近隣住民(平成29年度配布範囲と同様、半径500m程度の居住者) 	
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ◎利活用プログラム参加者に対して ・利活用プログラム当日に配布、その場で回収 ◎公園利用者(日常的な利用者)に対して ・プログラム実施日当日にプログラムには参加していない一般利用者を対象に実施 ・WEBアンケートにより、平成29年度実施範囲と同様、半径10km圏の住民を対象に実施 ◎近隣住民に対して ・平成29年度配布範囲と同じ範囲にポスティング 	
回答者数	プログラム参加者 (合計170人) <ul style="list-style-type: none"> ・手ぶらBBQ :45人 ・カフェ(キッチンカー) :55人 ・レンタサイクル :11人 ・自然観察会 :29人 ・SUP体験 :30人 	一般利用者 <ul style="list-style-type: none"> 公園利用者 :82人 WEBアンケート :1,384人 近隣住民 :317人

13

3. アンケート調査結果の報告【集計結果】

各プログラムのニーズ

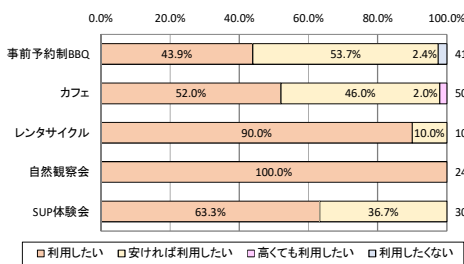
プログラム参加者(下図)

どのプログラムも「利用したい」「安ければ利用したい」が大半となっており、概ね肯定的である。

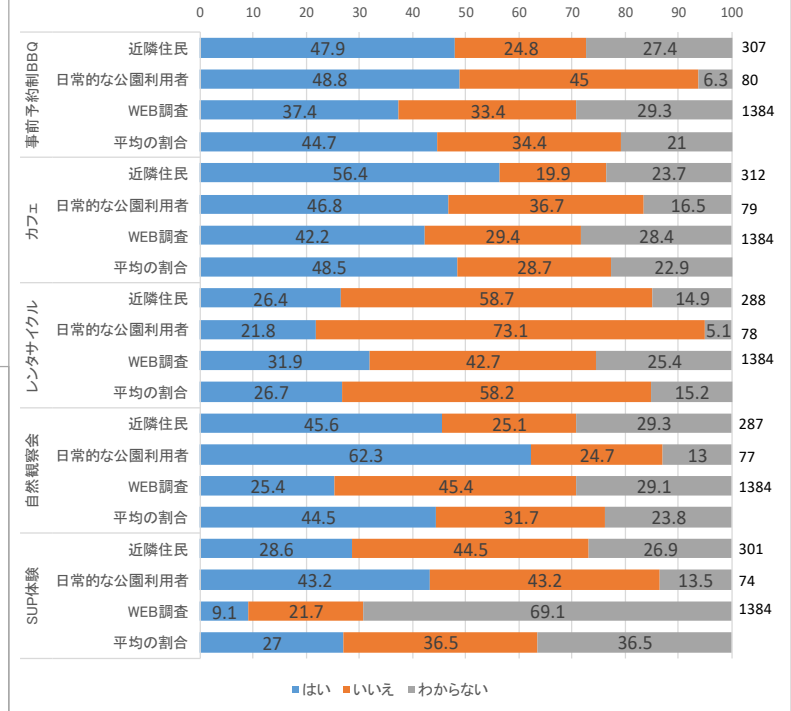
一般利用者(右図)

レンタサイクルは「いいえ」、SUPは「わからない」の割合が高く、他プログラムは「はい」の割合が高い。
SUPの結果については、SUP自体の認知度が低いことも一因であると考えられる。

Q. 同じ料金でもう一度利用したいですか



Q. プログラムを利用したいと思いますか



3. アンケート調査結果の報告【集計結果】

各プログラムの守口地区への適正

プログラム参加者

【事前予約制BBQ】n=44

- A : BBQができるスペースがあればよい 20.5%
- B : 今回の試行プログラムと同等の常設サービスがあるとよい 45.5%
- C : イベント等不定期に開催する手ぶらBBQがあるとよい 27.3%
- D : 守口地区にBBQは必要ない 0.0%
- E : その他 6.8%

手ぶらBBQがあるとよいと回答した割合(B+C)は約73%となっており、守口地区には手ぶらBBQの需要がある。

【カフェ】n=60

- A : 守口SC内の冷暖房の効いたところにカフェがあるとよい 26%
- B : 今回のプログラムと同等の常設サービスがあるとよい 28%
- C : 食事のできるカフェ(近隣の人も利用するような)があるとよい 38%
- D : 守口地区にカフェは必要ない 2%
- E : その他 6%

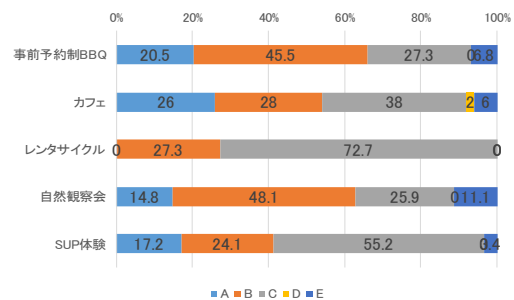
カフェがあるとよい(食事のできるカフェ含む)と回答した割合(A+B+C)は92%となっており、飲食機能が必要とされている。

【レンタサイクル】n=11

- A : 更衣室、シャワー室などを含む、拠点施設があるとよい 0%
- B : 今回の試行プログラムと同等の常設サービスがあるとよい 27.3%
- C : 気軽に立ち寄れる休憩スペースがあればよい 72.7%
- D : 守口地区レンタサイクルやサイクリング機能が必要ない 0%
- E : その他 0%

休憩スペースがあればよいと回答した割合は約73%となっており、自転車レンタルの需要は低いが、自転車利用者が利用できる休憩スペースは必要とされている。

Q. 守口地区に機能を導入する場合、どのような形態が適していると思いますか



【自然観察会】n=27

- A : 室内で説明を聞ける講義室などがあるとよい 14.8%
- B : 今回のプログラムと同等の常設サービスがあるとよい 48.1%
- C : 展示室や研究室など学習機能が充実した施設があるとよい 25.9%
- D : 守口地区に自然観察会は必要ない 0%
- E : その他 11.1%

自然観察会は必要ないと回答した割合は0%となっており、自然に触れあう機会や勉強の場への需要がある。

【SUP体験】n=29

- A : 更衣室やシャワー室なども利用できる体験施設があるとよい 17.2%
- B : 今回のプログラムと同等の常設サービスがあるとよい 24.1%
- C : イベント等不定期に開催する水上体験プログラムがあるとよい 55.2%
- D : 守口地区にSUP体験は必要ない 0%
- E : その他 3.4%

水辺利用の期待値は高く、常設ではなくイベント的な活用への需要がある。

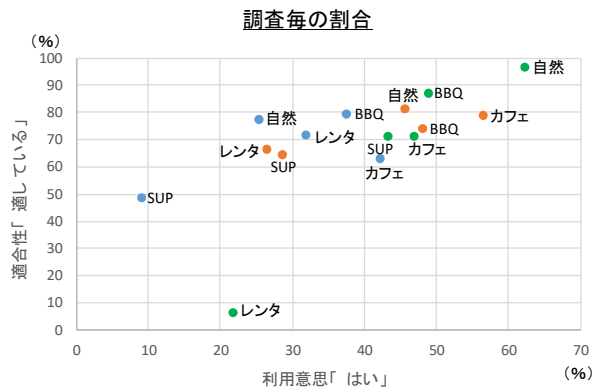
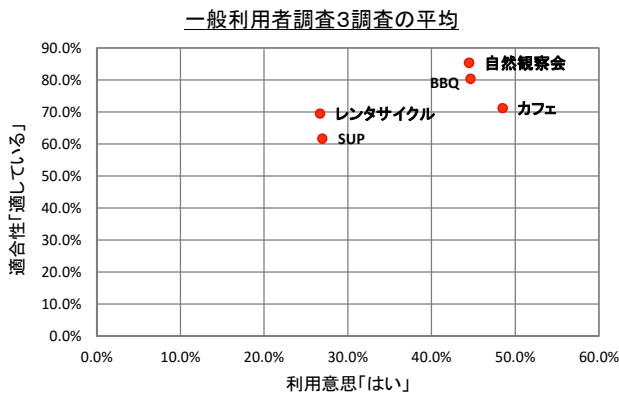
3. アンケート調査結果の報告【集計結果】

各プログラムの守口地区への適正に関する考察

一般利用者

各試行プログラムの利用意思について各調査平均の割合で「はい(利用したい)」と回答した割合と、淀川河川公園への適正性について各調査平均の割合で「適している」と回答した割合をみると、次のような傾向がみられる。

- 「事前予約制BBQ」「カフェ」「自然観察会」は利用意思及び適正性が高く、淀川河川公園にも適合しているグループと考えられる。
- 一方、レンタサイクルとSUP体験は、利用の意思、適正性ともに、前述の3プログラムよりもやや低くなっている。この傾向は、レンタサイクルは淀川河川公園までのアクセス手段の約3割が自転車となっていること、SUPはまだメジャーなスポーツでないことが影響していると考えられる。
- 近隣住民調査における「自然観察会」の適正が特に高く、近隣住民にとって淀川河川公園は自然と触れ合う場となっているといえる。



n 第一覧表	WEB調査			近隣住民	日常約2公園利用者
	利用意思	適正性	利用意思	適正性	利用意思
事前予約制BBQ	1,384	307	80	71	
	1,384	303	71	79	
カフェ	1,384	312	70	78	
	1,384	283	78	63	
レンタサイクル	1,384	288	63	77	
	1,384	289	64	74	
自然観察会	1,384	287	64	74	
	1,384	294	64	74	
SUP	1,384	301	74	60	
	1,384	258	60	60	

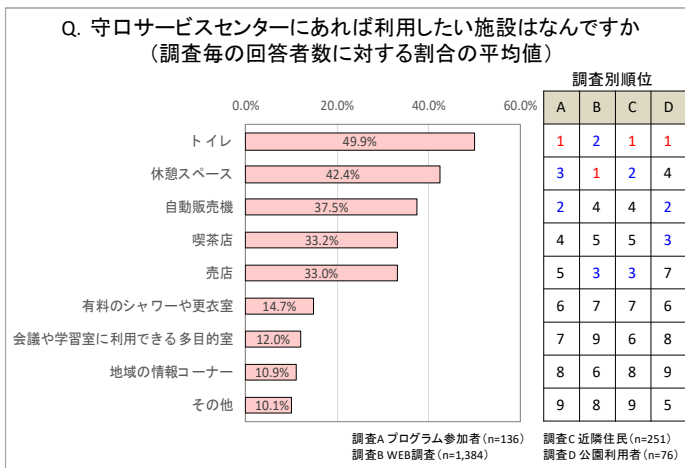
- 近隣住民
- 公園利用者
- WEB調査

3. アンケート調査結果の報告【集計結果】

導入機能・導入施設

サービスセンターに導入を期待される施設

- 守口SCにあれば利用したい施設については、いずれのアンケート調査においても同様の傾向となっている。
- 導入を期待される施設の上位は「トイレ」「休憩スペース」「自動販売機」である。
- 反対に、要望が低い施設としては、「地域の情報コーナー(インフォメーションコーナー)」「会議や学習室に利用できる多目的室」「有料のシャワーや更衣室」である。
- こうした傾向から、守口SCでは、誰もが利用しやすいトイレや休憩施設、飲料品などが入手できる施設が要望されていることが分かる。



守口地区に必要とされる施設

- 緑地や広場、河原や草原といった自然環境は、現状で利用されている施設であり、今後も利用ニーズが高い施設であるといえる。
- 「水際に近づける散策路」は利用要望が高いが、現状では未整備であるため、今後の整備が望まれる。
- 淀川河川公園での様々な活動に際して必要となるトイレがよく利用されており、利用したい施設として、使いやすいトイレや休憩施設の充足が要望されているものと考えられる。
- 運動施設よりも自然系施設の方が利用ニーズが高い。ただし、野球場や陸上トラックなどは利用者が限定されるため、アンケート調査では低い評価となっているものと考えられる。

利用した(する)施設	割合の平均値	分類	割合の平均値	利用したい施設
緑地や広場で遊んだ	54.1%	自然	36.8%	緑地や広場
河原や草原で自然に触れあった	44.2%		41.0%	水際に近づける散策路
			17.4%	ピクトープ
テニスコートを利用した	13.6%	運動施設	15.2%	テニスコート
野球場を利用した	11.3%		9.5%	野球場
陸上トラックを利用した	11.1%	休憩施設	9.1%	陸上トラック
河川敷移動式トイレを利用した	38.2%		56.3%	公園内のトイレの美化や増設
守口サービスセンターのトイレを利用した	20.5%		39.0%	公園内の休憩施設の充実
公園内の駐車場を利用した	22.0%	駐車場	10.8%	守口地区に近接する有料駐車場
守口サービスセンターのインフォメーション	6.8%		その他	
その他	10.1%	19.8%		その他

(4調査合計 n=981) (4調査合計 n=1,082)

3. アンケート調査結果の報告【集計結果】

プログラムの両立

参加したプログラム以外のプログラムに参加した(する予定)場合、どのような理由かを質問した。

		体験2				
		BBQ	カフェ	レンタサイクル	自然観察会	SUP
体験1	BBQ		5	1	4	0
	カフェ	1		1	5	1
	レンタサイクル	0	1		1	0
	自然観察会	7	4	1		1
	SUP	1	5	0	3	

体験1:参加したプログラム

体験2:他に参加したまたは参加予定のプログラム

- 複数プログラム参加した人は、BBQと自然観察会の組み合わせが最も多い。
- カフェは他プログラムと併せて利用されている
- 「内容に興味があった」以外の理由として「日時が合わせやすかった」「会場同士が近く、参加しやすかった」と回答した人が多い。

		カフェ	レンタサイクル	自然観察会	SUP
BBQ	プログラムの内容に興味があったから	3	1	2	0
	同行してくれる家族や友達がいいたから	1	0	1	0
	参加する時間・日にちが合わせやすかったから	0	0	3	0
	会場同士が近く、参加しやすかったから	1	0	1	0
	道具や服装などの準備の必要がなかったから	0	0	2	0
	料金的に手軽に参加できたから	1	0	1	0
	その他	0	0	0	0

		BBQ	レンタサイクル	自然観察会	SUP
カフェ	プログラムの内容に興味があったから	1	1	4	1
	同行してくれる家族や友達がいいたから	0	0	0	0
	参加する時間・日にちが合わせやすかったから	0	0	0	0
	会場同士が近く、参加しやすかったから	0	1	2	0
	道具や服装などの準備の必要がなかったから	0	1	1	0
	料金的に手軽に参加できたから	0	1	2	0
	その他	0	0	0	0

		BBQ	カフェ	自然観察会	SUP
レンタサイクル	プログラムの内容に興味があったから	0	1	1	0
	同行してくれる家族や友達がいいたから	0	0	0	0
	参加する時間・日にちが合わせやすかったから	0	1	0	0
	会場同士が近く、参加しやすかったから	0	0	0	0
	道具や服装などの準備の必要がなかったから	0	0	0	0
	料金的に手軽に参加できたから	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0

		BBQ	カフェ	レンタサイクル	SUP
自然観察会	プログラムの内容に興味があったから	2	0	0	1
	同行してくれる家族や友達がいいたから	4	0	0	0
	参加する時間・日にちが合わせやすかったから	2	0	0	0
	会場同士が近く、参加しやすかったから	2	1	0	1
	道具や服装などの準備の必要がなかったから	3	0	0	1
	料金的に手軽に参加できたから	1	1	1	0
	その他	0	1	0	0

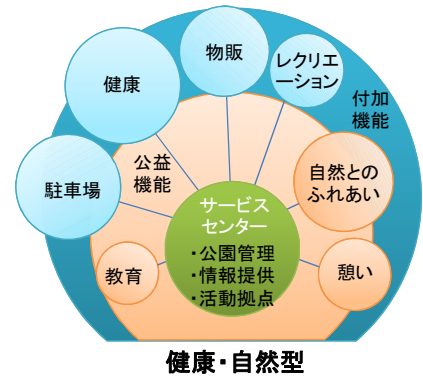
		BBQ	カフェ	レンタサイクル	自然観察会
SUP体験	プログラムの内容に興味があったから	0	2	0	2
	同行してくれる家族や友達がいいたから	1	1	0	0
	参加する時間・日にちが合わせやすかったから	0	1	0	0
	会場同士が近く、参加しやすかったから	0	0	0	0
	道具や服装などの準備の必要がなかったから	0	0	0	2
	料金的に手軽に参加できたから	0	1	0	0
	その他	0	0	0	0

4. 利活用プログラム・アンケート結果まとめ

利活用プログラム実施結果及びアンケートの結果から、自然環境とのふれあいやレクリエーション活動の場としての利用ニーズがあり、守口外島地区での「健康・自然型機能」は利用者からも適していると評価された。

再整備を検討するにあたり具体的な反映事項を整理する。

- 手ぶらBBQ、自然観察会、カフェは適正及び利用意思の両方の肯定意見が高く、守口地区外島地区への需要は高いと言える。
- SUP体験は、SUP自体の認知度が低く需要は低い「水際に近づける散策路」の整備への要望は高く、水辺を活用する仕組みづくりが必要である。
- レンタサイクルの需要は低い、自転車利用者の休憩スペースとしての利用は必要とされている。



プログラム	想定する導入機能	ニーズ			再整備への反映事項
		体験者	一般	WEB	
手ぶらBBQ	自然、レク、憩い	◎	◎	○	多目的広場を整備し、BBQエリアにも活用できるようにする。
自然観察会	自然、教育	◎	◎	○	SCIに多目的室を設けたり、舗装された広場を確保することで、各種体験にも対応できる場を設ける。
SUP体験	健康、自然、レク	○	○	△	イベント時等に水辺を活用しやすい工夫を行う。
レンタサイクル	健康、レク	△	△	○	ラックを設置するなど、自転車利用者が安心して休憩できる設備を導入する。
カフェ	憩い、物販	○	◎	◎	SCIにカフェを整備する。キッチンカー等の出店も可能な屋外スペースを確保する。

※体験者...プログラム参加者/一般...近隣住民・公園利用者/WEB...WEB調査

※◎:適正及び利用意思が高い/○:適正と利用意思のどちらかが低い/△:適正及び利用意思が低い

5. 守口地区外島地区 公園整備計画（素案）

守口地区及び外島地区の整備について

- ・ 守口地区、外島地区は、川ぎわのごく一部を除き、淀川河川公園基本計画では「多目的利用ゾーン」とされており、さまざまな利用が可能なエリアである。
- ・ また、「堤防の居住側」であるため、基本計画「施設整備計画」に基づきサービスセンターの配置も可能である。（サービスセンターの配置箇所として示されている。）
- ・ 既存運動施設の配置見直し等によるエコアップや、自然体験や健康づくり、BBQなど多目的に利用できる広場づくりを目指す。
- ・ まち側から公園へのアクセス性の改良など、淀川とまちをつなぐ結節点を目指す。

淀川河川公園基本計画(抜粋)			整備項目	運動施設の再配置と多目的広場の整備	守口サービスセンターのリニューアル	守口スポーツプラザ跡地利用	緑陰休憩施設の整備	トイレの移設・新設	駐車場の整備	エントランス広場の整備
整備方針	淀川らしい利用ができるようにする	① 淀川の自然環境と利用との調和を図る	○							○
		② 淀川の自然環境の中で水に親しみ、憩う場をつくる	○	○	○	○				○
		③ 淀川全体をつなぐ・まちと淀川をつなぐ		○	○				○	○
		④ 淀川の水辺の景観を楽しめる場をつくる	○	○		○				
	淀川にまつわる歴史・文化資源を活かす				○ (歴史講座の開催等)					

整備方針やゾーニングについては、別冊「守口地区外島地区 公園整備計画(素案)」を参照

20

5. 守口地区外島地区 公園整備計画（素案）

【守口サービスセンターの必要諸室の考え方】

- ・ 公園整備計画上の位置付けをもとに、新設するサービスセンターに必要とされる諸室を設定する。
- ・ 付加機能として、カフェを導入する。
- ・ 自然、健康プログラムや、地域情報の発信、市民参加活動等で使用されることを想定し、多目的室を設ける。
- ・ 「カフェ」はリニューアル体験会やアンケートにおいてニーズが高く、様々な公園利用者の休憩、憩いの場として必要性が高いため設ける。

表 守口サービスセンターの必要諸施設の考え方

	室名	備考
公園管理	事務室	
	休憩室、更衣室、待機室等	
	発動発電機、倉庫、(車庫)、その他	
一般利用	多目的室	自由に使える広々としたフリールーム
	カフェ	付加機能として民活導入を想定
	ロビー	
	トイレ、シャワー室	多目的トイレあり

21

6. 民間活力導入の考え方

【必要性】

- 民間活力を活用した魅力ある公園づくりにより、公園の質を向上し、公園利用者の利便の向上を図ることが期待されている

【民間活力導入で期待できること】

- 高水準なサービス施設の整備運営が可能
- 利用者ニーズに臨機応変に対応したサービス提供が可能
- 民間事業者の柔軟な提案力による新たな魅力創出が期待できる

【民間事業者へ期待すること】

民間事業者整備及び管理範囲

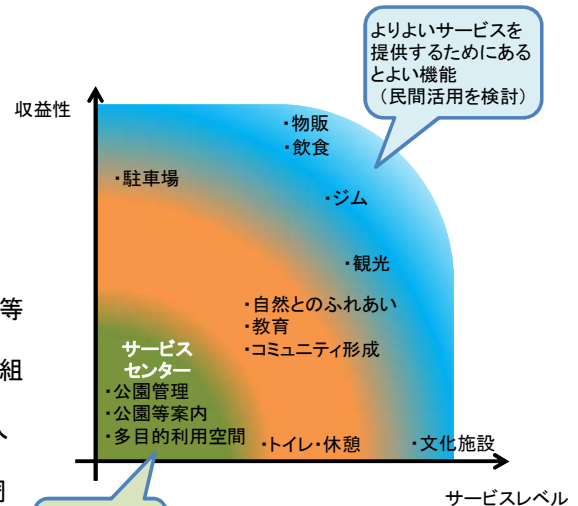
- サービスセンター内の軽飲食
- サービスセンター前広場の一部(10×20m程度)
- サービスセンター側駐車場
- スポーツプラザ跡地

民間事業者に期待する利用効果促進事業

- 守口地区や外島地区等を一体的に利用した積極的なイベント等の開催
- スポーツプラザ跡地と外島地区の利用相乗効果に資する取り組みの実施
- スポーツ施設等の活用に向けたインストラクター等の人材導入

提案の前提条件

- スポーツプラザ跡地は、公園整備計画(案)の整備方針及び周辺環境を踏まえ、屋内型スポーツ施設の整備運営を想定するものとする
- 外島地区の利活用については、例年行われているイベント等へ配慮すること



【官民連携による公園に必要なイメージ(例)】

6. 民間活力導入の考え方



【平成30年度】

「守口地区外島地区 公園整備計画(案)」とりまとめ

【平成31年度】

- 民間事業者サウンディングの実施
- 民間事業者の公募・選出
- 新サービスセンター工事に向けた詳細設計、関係機関協議の実施
- 歩道橋撤去に係る詳細設計、関係機関協議の実施